



# はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

## 横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



横浜医療センター外来ホールの七夕飾り

## がん診療特集号

### 第37号 目次

院長の言葉	1
がんに関する統計	2
緩和ケアについて	4
がん相談支援室	5
セカンドオピニオンとは	6
臨床研究・治験	6
平成24年度「病診連携の集い」開催について	6
外来担当医表	7



発行月：平成24年7月  
 発行：独立行政法人国立病院機構  
 横浜医療センター 広報委員会  
 発行責任者：工藤 一大  
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2  
 電話：045-851-2621  
 FAX：045-851-3902  
 URL：http://www.yokohama-mc.jp



当院携帯サイトはこちらから

# 院長の言葉

厚生労働省は今年5月31日、2010年の日本人の平均寿命について、女性が86.3歳、男性が79.55歳になったと発表しました。これは国・地域別で見ると、女性の平均年齢は1位が日本、2位が香港(85.9歳)、3位がフランス(84.8歳)。男性では1位が香港(80.0歳)、2位がスイス(79.8歳)、3位がイスラエル(79.7歳)で、日本は4位となっており、我国は世界で有数の長寿国となっています。



一方、我が国の死亡原因順位を見ると、1位はがんで1981年以降変わっておらず、全死亡に占める割合は29.5%と、3人に1人ががんで死亡しています。院長 工藤 一大  
心疾患15.8%、脳血管疾患10.3%が続く(図1)、上位3疾患の人口10万人当たりの死亡率は、それぞれ前年より上昇しています(図2)。そして、男性では肺がん死亡の増加傾向が著しく、女性では大腸がんと肺がんの上昇傾向が続いています。

このような現状に対しがん対策基本法(平成18年)、「がん対策推進基本計画」(平成19年)により国

はがん対策を総合的かつ計画的に推進しています。そして全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を戦略目標とする「第3次対がん10か年総合戦略」等に基づき、その整備を進め更なる機能強化に向けた「がん診療連携拠点病院」を制定しました。この内容としては、専門とする分野において集学的治療(手術・抗がん剤・放射線治療等の組み合わせ)を実施する、専門とする分野においては各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療を実施し、がん医療に関するセカ

ンドオピニオンを実施し、緩和ケアの専門チームを設置し、きめ細かい緩和ケアを提供することとしています。さらに、地域の診療所等へがん医療に関する情報提供を実施すること、地域の医療従事者に対する研修を実施し、地域のがん医療を支える人材を育成すること、がん医療に関する専門相談を受けることが求められています。当院においては以前からがん診療には力を入れており、手術・抗がん剤・

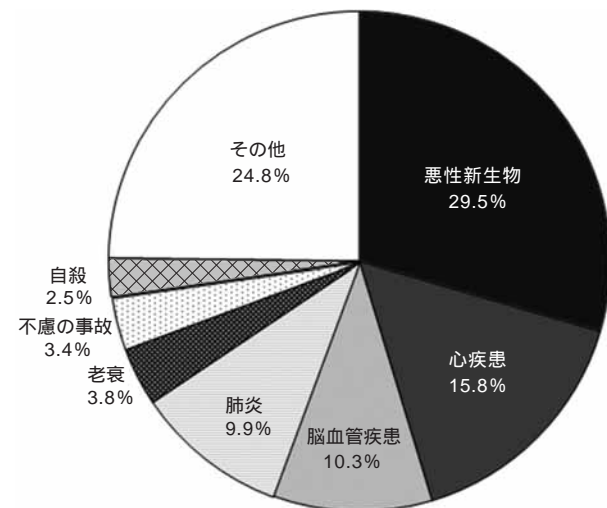


図1 主な死因別死亡数の割合(平成22年)  
(厚生労働省資料から抜粋)

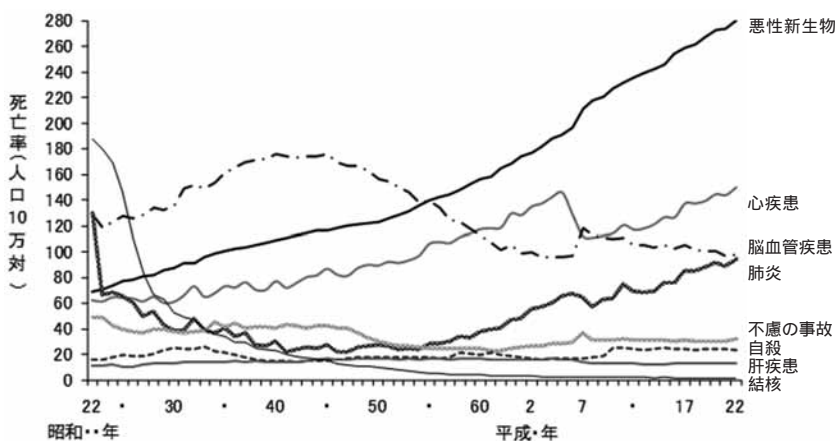
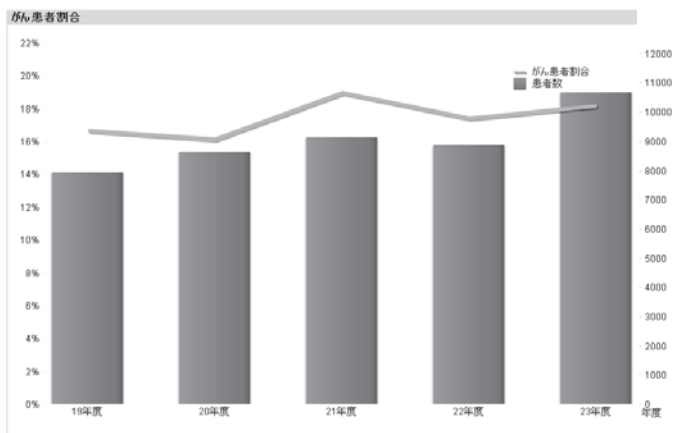


図2 主な死因別にみた死亡率の年次推移(厚生労働省資料から抜粋)

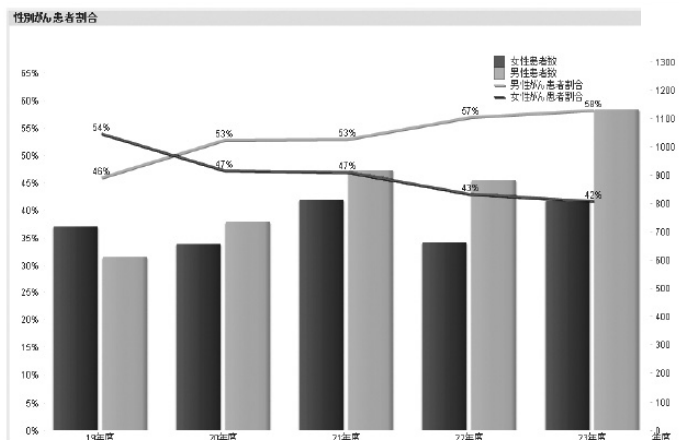
放射線治療等の集学的治療、緩和ケアなどを行ってきましたが、これまでの取り組みや実績については当院ホームページに詳しくのっております。原宿かわら版の本号では当院のがんへの取り組みを特集しましたので、ぜひご一読いただくと幸いです。

# がんに関する統計

## 退院患者におけるがん患者割合



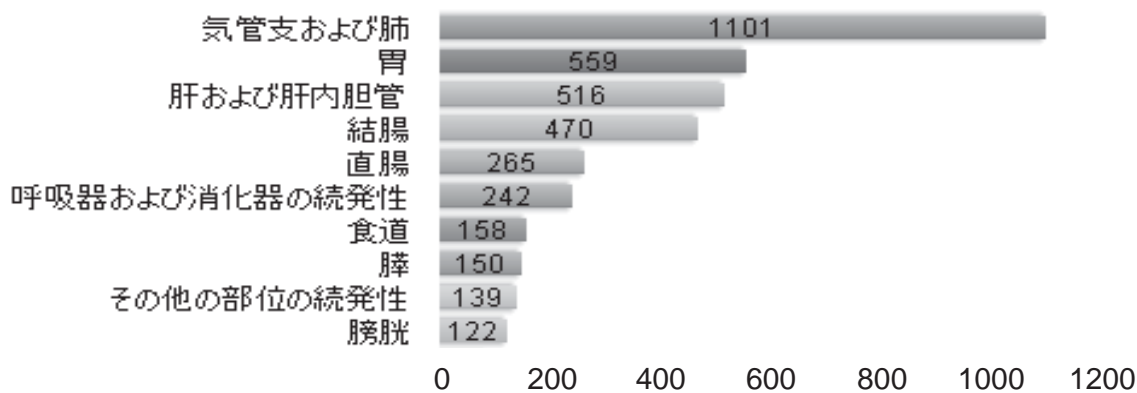
## がん患者数男女比



## 部位別入院患者数（19年度～23年度）

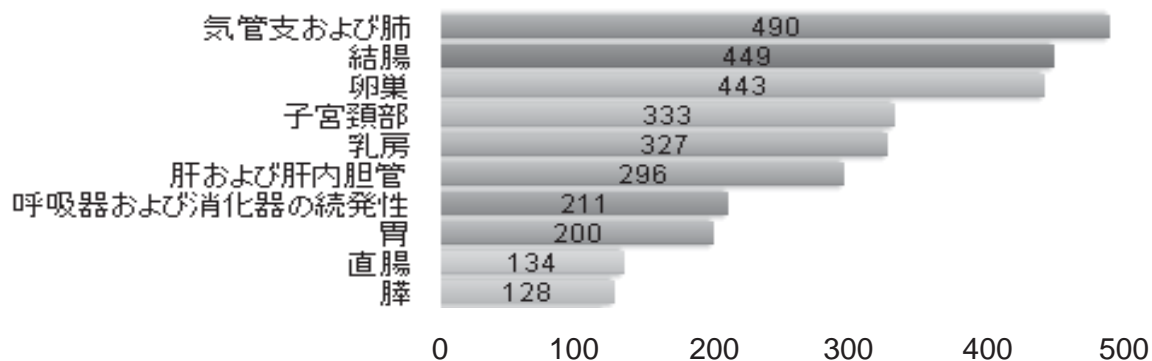
### 男性

小分類名称

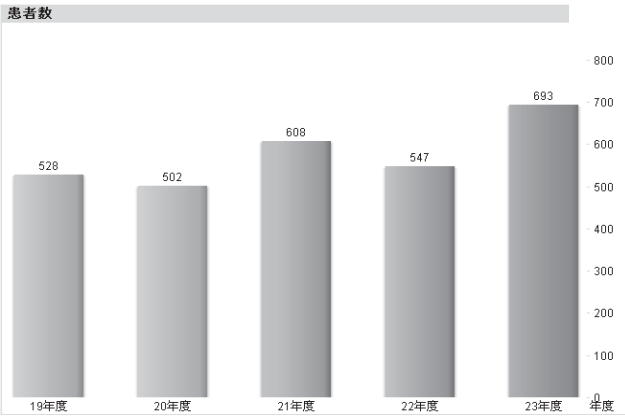


### 女性

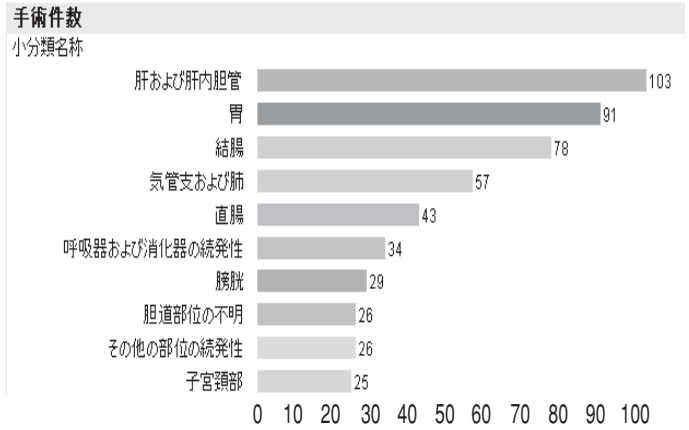
小分類名称



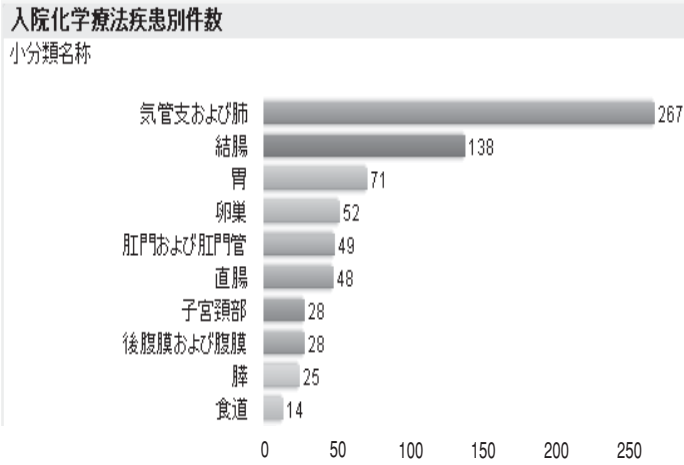
## 悪性腫瘍に対する手術件数



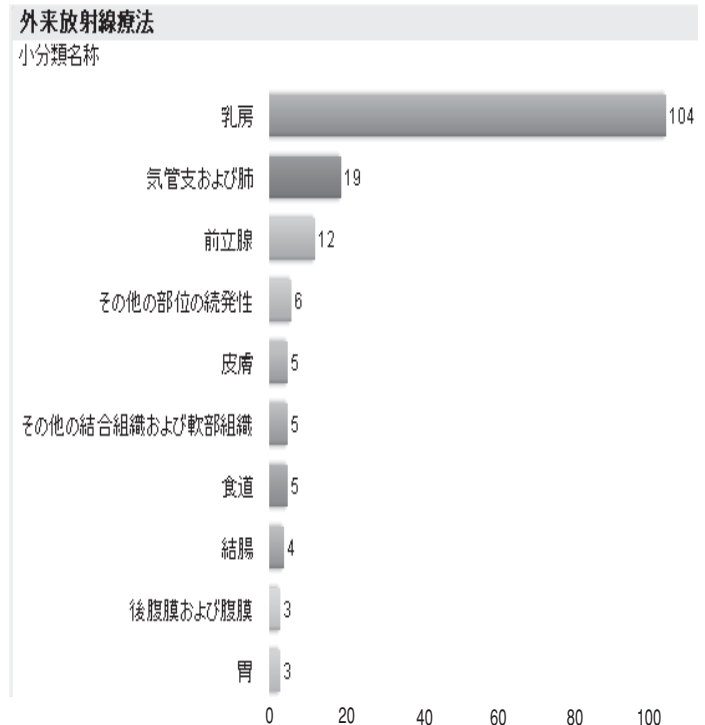
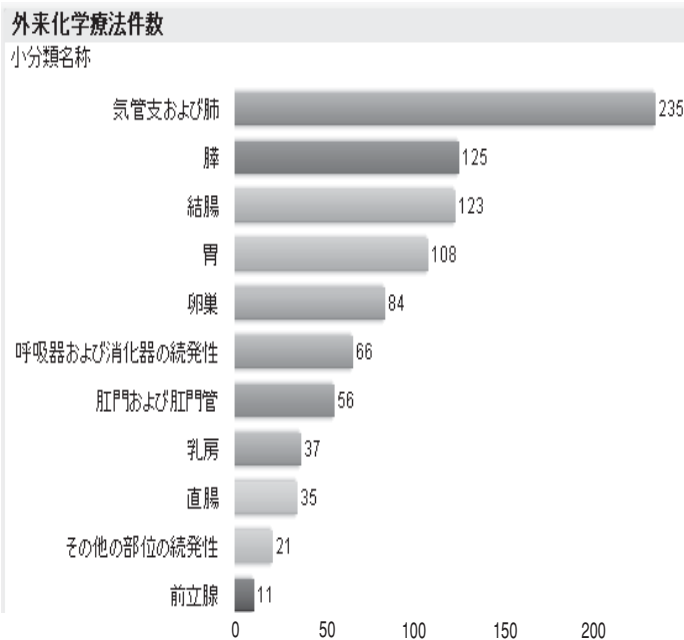
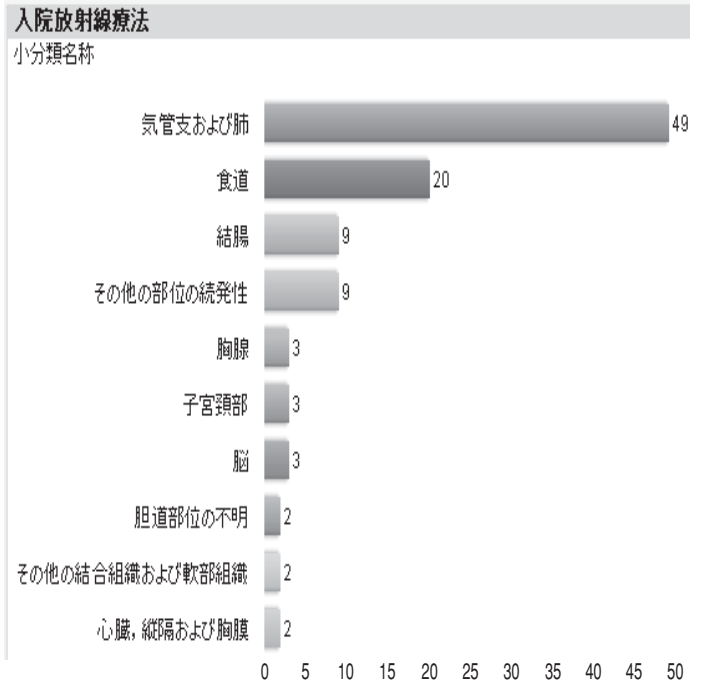
## 部位別手術件数（平成23年度）



## 化学療法（23年度）



## 放射線療法（23年度）





# 緩和ケアについて

## 1. がん医療における緩和ケア

がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切にすることを考えます。

がん患者さんや家族は、がんと診断されたとき、治療の経過、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じます。

緩和ケアでは患者さんと家族が自分らしく過ごせるように、医学的な側面に限らず、いろいろな場面で幅広い対応をしていきます。

がんの療養中は、痛みや吐き気、食欲低下、息苦しさ、だるさなどの体の不調、気分の落ち込みや絶望感などの心の問題が患者さんの日常生活を妨げることがあります。これらの問題はがんの療養の経過中、程度の差はあっても多くの患者さんが経験します。

「がんの治療のことではないから」と相談できずにひとりで抱え込んでしまったり、「症状だけをなくしても、がんが治るわけではないから」「気持ちの持ちようだから」と症状を和らげることに消極的な人もいます。

今までのがん医療の考え方では、「がんを治す」ということに関心が向けられ、医療機関でも患者さんの「つらさ」に対して十分な対応ができていませんでした。しかし、最近では、患者さんがどのように生活していくのかという「療養生活の質」も「がんを治す」と同じように大切に考えられるようになってきています。

患者さんを「がんの患者さん」と病気の側からとらえるのではなく、「患者さんらしさ」を大切に、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル（霊的）な苦痛について、つらさを和らげる医療やケアを積極的に行い、患者さんと家族の社会生活を含めて支える「緩和ケア」の考え方を早い時期から取り入れていくことで、がんの患者さんと家族の療養生活の質をよりよいものにしていくことができます。

## 2. 緩和ケアを受ける時期

緩和ケアを、がんの進行した患者さんに対するケアと誤解し「まだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思い込んでしまう患者さんや家族は少なくありません。

しかし、本来、緩和ケアは、患者さんの体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切にすることを考えますから、がんの病状によって緩和ケアを受ける、受けないを決めるというものではありません。

実際にはほとんどのがんの患者さんは、治療に伴う副作用やこれからのことへの不安、痛みなどのつらい症状をできるだけ少なく過ごしたいと考えているでしょう。例えば、がんと診断されたときには、ひどく落ち込んだり、落ち着かなかったり、眠れないこともあるかもしれません。抗がん剤や放射線治療では食欲がなくなったり、吐き気などの副作用が起こることもあります。

痛みはがんの早い時期にも、進んだ時期にも見られる症状です。痛みが強いままではがんの治療もつらく、また生活への影響も大きくなってしまいます。また、がんが進行した時期に、痛みや吐き気、食欲不振、だるさ、気分の落ち込み、孤独感などに対して適切な治療やケアを受けることは、生活を守り、自分らしさを保つことにつながります。

緩和ケアは患者さんのどのような病状であっても、どのような時期にも受けることができます。

## 3. 緩和ケアを受けるには

当院において緩和ケアは、がんの治療中かどうかや、入院外来などの場を問わず、いずれの状況でも受けることができるようになっています。

### 1) 緩和ケアチーム

当院入院中の患者さんががん治療と並行して受ける緩和ケアは、主に「緩和ケアチーム」が担当します。緩和ケアチームは、主治医や病棟の看護師などと協力して緩和ケアを提供します。

次ページへ→

## →前ページより

緩和ケアチームは、主治医や病棟の看護師などと協力して緩和ケアを提供します。緩和ケアチームは体と心のつらさなどの治療のほか、患者さんの社会生活や家族を含めたサポートを行うために、さまざまな職種のメンバーが関与しています。当院の緩和ケアチームは麻酔科医師、消化器内科医師、精神科医師、緩和ケアを専門とする看護師、薬剤師、臨床心理士により構成されています。また入院していた患者さんが外来通院や在宅療養に移行した時に困らないよう、地域連携室とも密接に連絡をとっています。緩和ケアチームの診療は、担当医から勧められることもあります。患者さんや家族から希望することもできます。つらい症状が続いている場合には、我慢しないで緩和ケアを受けましょう。



## 2) ペイン・緩和ケア外来

ペイン・緩和ケア外来は、通院中の患者さんに対して、院内の緩和ケアチームが行う外来です。入院中に緩和ケアチームの診療を受けていた患者さんも、退院後引き続きペイン・緩和ケア外来で診療を行います。当院では月・水・金の午前に外来を開いています。診察をご希望の患者さんは地域連携室をとおして予約をとって下さい。

# がん相談支援室

当院では、がんでお悩みの患者さまやご家族のために、8月に『がん相談支援室』を、開設致します。がん相談支援室は、がんに関する不安や悩み、誰にも打ち明けられない気持ち、病気に対する疑問など、さまざまなご相談をお受けしています。どこに相談したらよいかわからないとき、療養上の支援が必要なときなど、気軽にご相談ください。

なお、相談は、専属の看護師・医療ソーシャルワーカーが医師・他専門職などと連絡を取りながらご相談をお受けしてまいります。経済的なことや社会的な内容についても対応します。

相談内容は秘密を厳守いたします。

どなたでもご利用いただけますので、どうぞお気軽にご相談ください。

## <主なサービス>

1. がんの病態、標準的治療法及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報提供
2. 地域の医療機関や医療従事者に関する紹介
3. セカンドオピニオンが受けられる医療機関の紹介
4. がん患者様・ご家族の療養上の相談
5. 緩和医療に関する相談
6. 療養施設（療養型病院・ホスピス・在宅医療）に関する相談

<場 所> 横浜医療センター 1階 がん相談支援室

<相談時間> 8:30 ~ 17:15 電話・面談月曜日 ~ 金曜日※ 祝日・年末年始(12/29~1/3)を除きます。

<連絡先> 045-853-8317 (直通)

<担当者> 専属看護師・ソーシャルワーカー

<費 用> ご相談は無料です

# セカンドオピニオンとは

## ◆概要

自分の病気の診断や治療方法について、今かかっている医師以外の医師の意見を聞く事を言います。それにより患者さんご自身が治療方法を決定するための参考意見を提供するものです。

## ◆相談対象者及び内容

- ・現在、どこかの病院にかかっており、また、かかった事があり、主治医から診断や治療方針の説明を受けた方で、示された治療方針等について迷っている方、あるいは、他に治療方針はないかと考えている方、またはその家族を対象といたします。ただし、家族のみで相談する場合は、原則として本人の同意(セカンドオピニオン同意書)を必要とします。
- ・相談内容は診断や治療に限るものとし、医療訴訟や医療給付などの相談は対象外とします。
- ・相談内容によっては、セカンドオピニオン外来よりも一般外来の受診を勧める場合もあります。
- ・現在当院で受診中の方で、他の医療機関のセカンドオピニオンを希望される場合は、遠慮なく主治医にお申し出下さい。

## ◆相談日時(完全予約制)

月曜日～金曜日 ※原則として、相談時間は最長1時間までとしております。

## ◆相談場所

1階 Bブロック セカンドオピニオン室

## ◆予約方法

- ・予約手続きは、地域医療連携室で行います。
- ・郵送かFAXで送付されてきた申込書(セカンドオピニオン外来申込書)に基づき、担当医と日程調整のうえ予約日時を決定し、相談者へ連絡します。

## ◆当日ご持参いただくもの

- ・紹介状 ・検査資料(レントゲンフィルム、血液検査データなど)

## ◆相談診療科と担当医

各診療科 担当医 ※脳神経外科は、保険診療(通常の外来)で行っており、予約は取れません。

## ◆相談費用

自費扱いとなります。30分までは5,250円とし、最長1時間までとします。

## ●申込み・問い合わせ先

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター 地域医療連携室

電話 045-853-8355 / FAX 045-853-8356

# 臨床研究・治験

国立病院機構では、安全で質の高い医療を提供するために、治験等の臨床研究の推進を使命の一つとして掲げています。臨床研究の実施又は継続の適否その他臨床研究に関し必要な事項について、被験者の人間の尊厳、人権の尊重その他倫理的観点及び科学的観点から調査審議を行っております。

当院倫理委員会では、23年度において10回開催されており、がん診療についても積極的に審議されております。

また、新しい薬や新しい治療方法が早く提供されるように、積極的に「治験」にも取り組んでいます。倫理委員会と同様に、受託診療審査委員会においても、23年度において10回開催され、がんに関する治験にも取り組んでいます。

「治験」とは・・・

新薬の開発の最終段階では健康な人や一部の患者さんの協力を得て、薬の効き目(有効性)や副作用(安全性)について調べることが必要です。人における試験を一般に「臨床試験」といいますが、国(厚生労働省)から「くすり」として承認を受けるために行う臨床試験のことを「治験」といいます。

治験に関する情報は、当院ホームページに公開しています。ご興味のある方は主治医または治験管理室までお問い合わせください。

# 平成24年度「病診連携の集い」開催について

当院では、登録医となって頂いている先生方に、当院の取り組みについてご紹介させて頂くとともに、当院との地域医療機関の進捗を深め、より緊密な連携がとれる体制を構築することを目的として、例年登録医との集会を開催させて頂いております。

今年度の開催は、平成24年7月26日(木)午後7時から横浜医療センター2階 会議室で行います。

今年度は、当院の新たな取り組みである「がん診療連携パス」について、皆様方へご説明させて頂く機会を併せて設けて頂きました。



診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考		
外来受付 A	小児科	鍋木 陽一 河合 駿 山崎 真弓	菅井 和子 宮地 裕美子 内田 理	菅井 和子 中野 晃太郎 神垣 佑	鍋木 陽一 鈴木 剛 小堀 大河	福山 綾子 小林 慈典 平田 理智	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)	
	心臓血管外科 形成外科	盆子原 幸宏	手術日 村下 一晃	東館 雅文 手術日	東館 雅文 村下 一晃	東館 雅文 村下 一晃		
	整形外科	浦上 秀威 川畑 武彦	日塔 寛昇 伊藤 りえ	浦上 秀威 門脇 純弘	日塔 寛昇 林 陸	川畑 武彦 林 陸		
		鈴木 宙	日野 勝利	鈴木 宙	伊藤 りえ	門脇 純弘		
外来受付 B	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	▲:紹介状持参の方のみ ■:午後の予約のみ 《循環器科新患当番医》*(月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出]	
	糖尿病内分泌内科	小松 裕美子 ■高木 佐知子	高木 佐知子	宇治原 誠	宇治原 誠	五百川 仁見		
	神経内科	菅原 恵梨子	齋藤 麻美	上木 英人	岡本 光生	高橋 竜哉		
	腎臓内科	松下 啓	小宮 麻里子	山名 比早子	松下 啓	榎原 基史		
	呼吸器内科	後藤 秀人	検査日	山川 泰	検査日	榎原 基史 交代医師(初診)		
	消化器内科	塩原 康正(初診)	栗山 朋子(初診) 鈴木 大輔 ■小松 達司	小松 達司(初診) 松島 昭三	松島 昭三(初診) 野登 はるか ■小松 達司	小松 達司		
	循環器内科	森 文章 内田 吉枝 初診:交代(*)	岩出 和徳 網代 洋一(午前)	田中 直秀	初診:岩出 和徳 ■小松 達司	岩出 和徳 嵐 弘之		
	リウマチ科	出口 治子	宮城 瑠美子 ■出口 治子	検査日	宮城 瑠美子 ■出口 治子	出口 治子 ■宮城 瑠美子		
	外科	清水 哲也 土屋 伸広 小暮 悠	関戸 仁 松田 悟郎 押 正徳	松田 悟郎 三宅 謙太郎 田 健寛	関戸 仁 松田 悟郎 清水 哲也 三宅 謙太郎	急患のみ (交代医師)		
		呼吸器外科		安藤 耕平 李 相憲	李 相憲 安藤 耕平	坂本 和裕 李 相憲		
	脳神経外科	急患のみ (手術日)	岡田 富 宮原 宏輔	郭 椿吾 ●交代医師 脳ドック(※) 向原 茂雄	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫		
	外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸		佐々木 祐幸 手術日
		眼科	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦		手術日 秦 桂子
		泌尿器科	本田 直康 津村 秀康	本田 直康 奥野 紀彦	手術日	奥野 紀彦 津村 秀康		本田 直康 笹本 治子
皮膚科		齊藤 典充 屋代 正晃	齊藤 典充 屋代 正晃	齊藤 典充 手術日	齊藤 典充 屋代 正晃	屋代 正晃		
外来受付 D	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査		
	精神科	南 さわこ	心野 拓	大橋 茉莉子	山口 和己	内村 放		
	産婦人科	長谷川 瑛 産科	小笠原 良治	窪田 与志	栗杉 輝彦	中村 秋彦		
	産科	窪田 与志	長谷川 美美子		高木 偉博	長谷川 瑛		
専門外来 (他の医療機関からの予約制)	小児科	アレルギー検査	フォローアップ外来(平日)	アレルギー(菅井)	フォローアップ外来(福山)	アレルギー(宮地・内田)	(※)第1,3,5週 本井 神経外来(※) 循環器科外来(鈴木)	
		シナジス(10~3月) (交代制)	腎臓外来(長瀬) フォローアップ外来(福山)	アレルギー(鈴木)	1カ月健診 (交代医師)			
		アレルギー(菅井)	アレルギー(鈴木)	予防接種(交代制) 13:30-14:30	1カ月健診 (交代医師)			
		感染免疫・アレルギー (小児)						
	慢性疾患外来							
	整形外科		スポーツ整形外科(林)			スポーツ整形外科(林)	毎週15:00~16:00 予約のみ	
	神経内科		頭痛外来 物忘れ外来				地域連携室を通して完全予約制	
	糖尿病 内分泌内科	糖尿病連携/バス外来		腹膜透析外来	糖尿病看護ケア外来			
	腎臓内科	腹膜透析外来		糖尿病看護ケア外来	糖尿病看護ケア外来			
	看護部			糖尿病看護ケア外来	糖尿病看護ケア外来			
	麻酔科	ペイン・緩和外来		ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	地域連携室を通して完全予約制	
	外科			スキニング外来(※)	乳がん検診 補聴器外来(午後) 睡眠時無呼吸 症候群外来			
	耳鼻咽喉科			ヘアースタイル外来				
	循環器科							
	精神科		物忘れ外来				初診には紹介状が必要。1日2名の予約制。	
	産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	(※)午後のみ。夫立会教室は第2、4週土曜日、第3週日曜日。	
	呼吸器外科					アスベスト外来(坂本)	地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ)	
	放射線科	海津 久 注②		榎多 政治 注①	菅川 由美子 注①		※注① 9:00~11:00 ※注② 13:30~15:30	

初診 受付: 平日 8:30~10:00  
 再診 (予約外) 受付: 平日 8:30~10:00  
 休日 診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日  
 地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)  
 紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。  
 地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)  
 TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)  
 FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

### 編集後記

今年は、6月にも関わらず台風が上陸し、かなりの暴風雨で大変なおもいをしました。現在、当横浜医療センターでは、障害者駐車場、バス停、駐輪場の屋根の設置工事を行っております。完成のおりには、患者の皆様におかれましては一層便利になることと思っております。